



交流スペース

明治公園利用者が利用できる休憩スペース。

資料閲覧室

約1,200冊の書籍や証言DVDを視聴できる場。室内の階段は旧互尊文庫で使用していたものをモニュメントとして残し、この建物が長年市民に愛されていた場所であったことを伝える。

ホール

メインエントランスとして、明治公園利用者も建物に気軽に入ることができるような明るく開放的な空間。戦災資料館の象徴である「母子像」を配置。近隣の歴史関連施設の案内図も設置。



祈りの間

空襲で犠牲になられた方々へ想いを馳せる空間。それぞれの遺影に向き合い、学校区、家族ごとに展示した円筒状の壁で構成。部屋の奥には殉難者名簿とその銘板を配置。前室では、亡くなられた方の人柄や当日の様子を知ることができる。

資料展示室

子どもたちも理解しやすいよう、もの（資料）と人びとの声（想い）を効果的に配置。デジタルコンテンツも活用し、空襲経験を自分の事として捉えられるようにした。新設した「復興・恒久平和」のエリアは、来館者が平和の尊さを感じ、語り部や来館者同志で対話できるよう椅子を配置し、未来を創造する場となるよう明治公園の光を感じる明るい空間とした。

室内では空襲関連DVDの視聴ができ、当時の空襲警報音源等を聞くことができる。また、防空壕の大型模型も設置した。なお、室内は旧互尊文庫の躯体を一部当時のままとしたことで、流れた時を感じられ、展示資料との親和性も高い空間とする。時代を超えたような雰囲気の中で、来館者が資料“そのもの”に集中して、向き合うことができるようにした。

ホール

空襲前のにぎやかな日常・まちの様子を壁面展示

企画展示・学習室

語り部の講話やDVDの視聴により、空襲の史実を学ぶ伝承の場。年間を通してさまざまな企画事業を実施予定。壁面には、市民ボランティアが作成した戦災住宅焼失地図を展示。

ホール

大型の被災資料（戦禍をくぐり抜けた日赤病院の扉）を展示

